



思い出を語る会のオープニングで夏井大梵天神楽を舞う生徒



全校生徒で記念撮影



岩手県の中学校総合文化祭でおらが町の昔っこを披露



養護老人ホーム養寿荘でのボランティアも続いてきました



思い出を語る会の最後に参加者全員で校歌を斉唱



地域の人に教わりながら田植えを体験



コスモス園祭で舞を披露。満開のコスモスを背に記念撮影



お別れの合唱をする生徒



方言で表現豊かに語ったおらが町の昔っこ



閉校式でお別れの言葉を述べた森陽翔さん

地域の行事で舞い継いだ伝統の神楽

夏井中学校

地域で披露してきた伝統の舞と全校生徒の構成詩で、感謝と思い出を分かち合う

地域とともに歩んだ79年
夏井中学校は、昭和22年に開校し、これまで3708人の卒業生を輩出してきました。全校生徒で舞い継いできた夏井大梵天神楽を伝統に県内の行事への出演、全国こども音楽コンクール東北大会出場など、輝かしい歴史を刻みました。



校旗を返納する木村校長

今後ともこれまでの活動を長く語り継いでほしいです」とあいさつしました。
同日開かれた思い出を語る会では、全校生徒が夏井大梵天神楽を力強く披露。学校生活の思い出を構成詩で語りました。歴代校長らのスピーチや思い出の映像で歴史を振り返り、参加者は学校と地域の思い出を分かち合いました。

受け継がれた三大文化

大川目中学校

地域を学び、地域に貢献してきた、大川目中学校の軌跡

三大文化を継承
大川目中学校は、昭和22年開校以来、4154人の卒業生を輩出。「大中ソラン」・ボランティア・合唱の三大文化を受け継いできました。ボランティアでは、地域の清掃や廃品回収で得たお金のユニセフ募金に取り組み、平成29年から久慈城跡の清掃活動が毎年恒例行事に。最後の1年は大川目に伝わる昔話を地域の方言で語る「おらが町の昔っこ」に挑戦し、地域への理解を深めました。



校旗を返納する佐々木校長

これからも地域と共に
閉校式は3月14日に開かれ、約1000人が見守る中、79年の歴史に幕を閉じました。式では佐々木美江子校長が「地域を愛し、地域を大切に、地域と歩む人になってほしいと願っています」とあいさつ。式後のお別れの会では、生徒が学年ごとに、久慈溪流や山口柿が題材の昔語りを豊かに語りました。



生徒代表・2年生 大下 幸子さん

大川目中学校は学年を超えて仲がよい学校です。人数が少ない分、生徒1人1人が活躍できる機会があり、自ら進んで取り組む力を身につけました。大川目中学校で学んだことを生かし、多い人数の中でも輝けるよう、自分から行動していきたいです。



閉校記念式典実行委員長 三上 昌明さん

数々の人材を送り出してきた母校の閉校に寂しさを感じています。生徒たちは久慈城跡の清掃やボランティア活動など長年にわたり地域に貢献してくれました。活動が引き継がれ、子どもたちが地域との関わりを続けてくれることを願っています。



生徒代表・2年生 高橋 日依さん

2年間の思いが詰まった学校を離れ、校舎や先生方と別れることは寂しいですが、その思い出は心に残り続けます。これまで学んだことを胸に、新しい学校でも仲間との出会いを大切にしながら、共に頑張っていきたいと思います。



閉校記念事業 実行委員長 播磨 孝則さん

79年の歴史を重ねた学び舎は、地域とともに多くの思い出と伝統を築いてきました。その歩みに感謝を込め、生徒の皆さんには、この経験を力に新たな環境でも自分らしく歩み、未来へ力強く進んでいくことを願っています。